

# 令和 8年度予算見積調書

課室名：青少年課  
担当名：企画・非行防止担当  
内線：2911

(単位：千円)

番号	事業名				会計	款	項	目	説明事業			
P44	バーチャルユースセンター事業				一般会計	総務費	県民費	青少年育成指導費	青少年総合支援事業費			
事業期間	令和 6年度～令和 8年度	根拠法令	子ども・若者育成支援推進法第13条 子ども基本法第3条、第5条				針路	05 未来を創る子供たちの育成	SDGsゴール	1, 4, 10		
							分野施策	0502 豊かな心と健やかな体の育成	SDGsターゲット	1-2, 1-b, 4-5, 10-c		
1 事業概要			5 事業説明 (1) 事業内容 「バーチャル埼玉」を利用して、小学生から大学生程度までのあらゆる子ども・若者が安心して気軽に交流し、相談ができる居場所「バーチャルユースセンター」を運営する。  (2) 事業計画 バーチャルユースセンターの運営を委託  (3) 事業効果 リアルの他にメタバースにも居場所を整備することで、あらゆる子ども・若者に各人に適した多様な居場所が身近にあり、将来の夢や目標を持つなど、自己肯定感を高めることができる。 また、居場所で大人と信頼関係を構築することによって、子ども・若者が生きづらさを感じることもあっても、気軽に相談し、適切な支援により生きづらさを乗り越え、生き生きと活躍することができる。 【活動指標(アウトプット)】居場所の運営(延べ利用者 720人/年) 【成果指標(アウトカム)】「居場所だと感じる」利用者の割合 50% 深刻化の予防につながったと感じる支援者の割合 60%  (4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携状況 居場所の運営を民間団体に委託し、民間のノウハウを活用する。 本事業と市町村の居場所や支援を相互につなぐため市町村と連携するほか、ノウハウを共有する。									
居場所の数が多い子ども・若者ほど自己肯定感が高く、将来に希望を持っている。子ども・若者が自由に選べる居場所は、地域に加えてオンライン空間にも設置して多様性を確保することが必要である。 そこで、メタバースに子ども・若者の居場所を整備することで、あらゆる子ども・若者に「居場所」があり、活躍でき、安心して暮らせる埼玉県を目指す。												
バーチャルユースセンター事業 26,835千円												
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)												
3 地方財政措置の状況 なし												
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×1人=9,500千円												
予算額			財 源 内 訳						一般財源	前年との 対比		
決定額	26,835								26,835	△218		
前年額	27,053								27,053			

## 事業内訳書

事業名	バーチャルユースセンター事業		
単位事業名	バーチャルユースセンター事業	予算額	26,835千円

### ○歳入

(単位：千円)

款・節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
一般財源	26,835	△218	
合計	26,835	△218	

### ○歳出

(単位：千円)

節	当初予算額	対前年度増減額	主な内容
報償費	50	△817	体験・交流等謝金
旅費	35	△10	連絡調整旅費
役務費	5	△1,458	オフ会保険料
委託料	26,745	2,067	ユースセンター運営委託費
合計	26,835	△218	